

稲生川頭首工流域の水田水温と気温・日照時間の関係（１９９４年）

早期警戒情報においては、気温・日照時間・降水量が冷害危険度地帯別に過去７日間の移動平均で示されています。これらのデータと水田水温（午前９時測定）との関係を整理してみました。

１９９４年度は水温測定が週２日であるため、水温に関しては過去７日間の移動平均値を計算できないため、週２日のデータをそのまま使用して関係を図示することにします。

１）日最高気温と水田水温の関係（図１参照）

水温データが少ないために、全体の傾向を読むことはできません。最高気温が２５度を超えるのは７月１５日で、ちょうど幼穂形成期頃にあたり、その後は最高気温が水温より高くなる傾向があります。

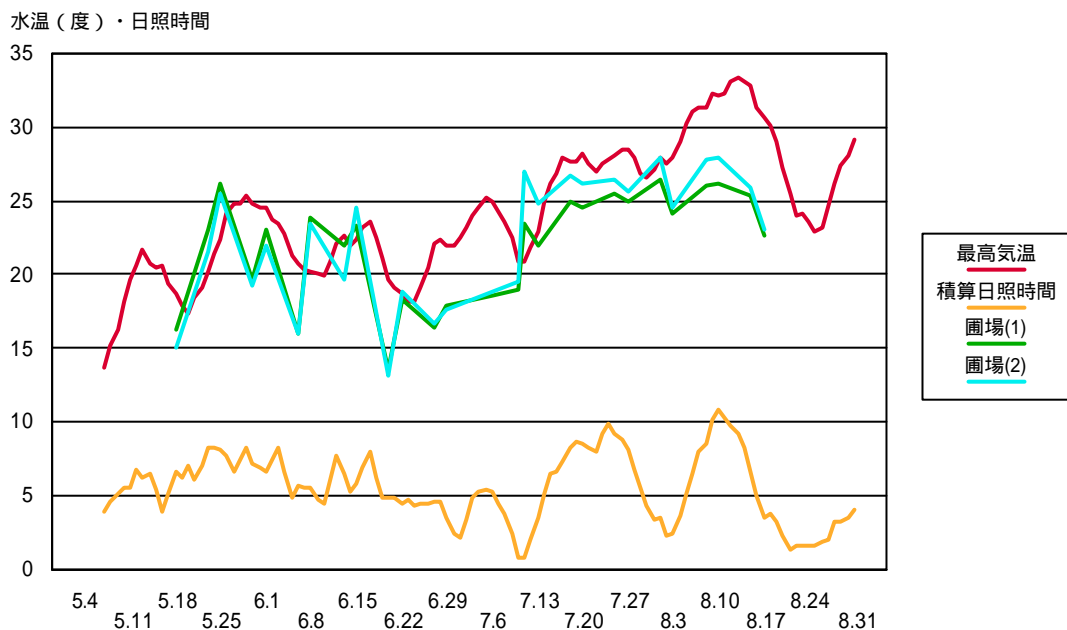


図１ アメダス十和田の最高気温と水田水温（午前９時）の推移
１９９４年度
最高気温 積算日照時間は過去７日間の移動平均
水温は週２回の計測データを使用。

２）日最低気温と水田水温の関係（図２参照）

最低気温が１７度を越えたのは７月１５日で、ほぼ幼穂形成期に相当します。水田水温は全期間を通して最低気温より高く、５，６月の生育初期においてその差が大きい傾向がみられます。

また、日照時間が多いほど（５時間以上）水田水温と最低気温の開きは多くなるように見えます。反対に、日照時間が少ないほど（５時間以下）両者の開きは小さくなる傾向があります。

水温（度）・日照時間

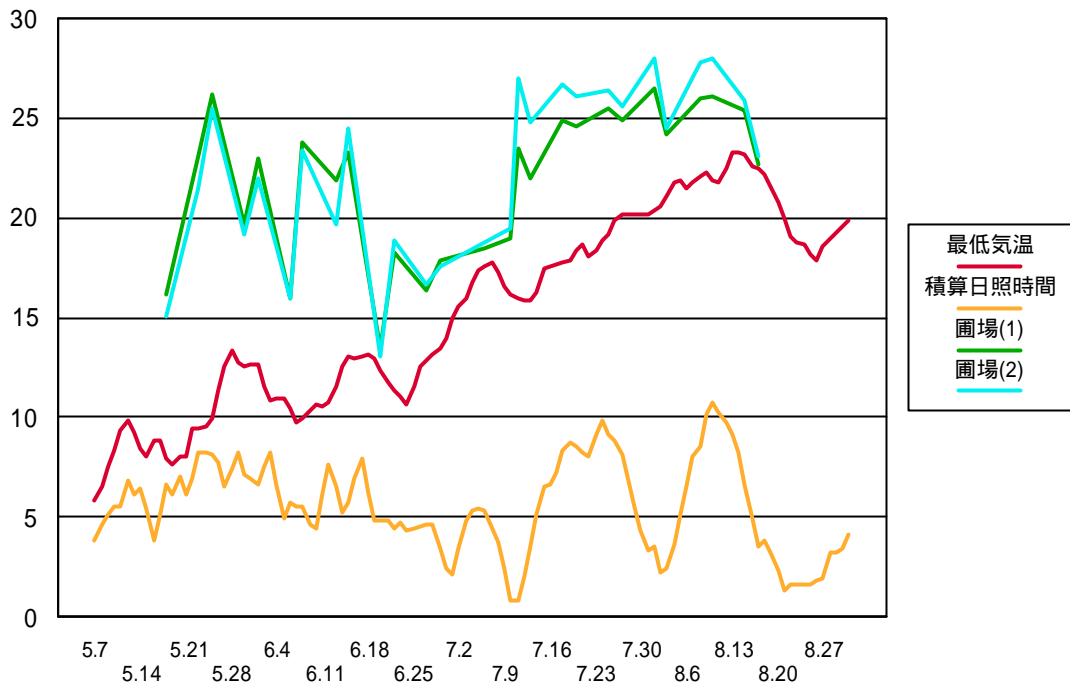


図2 アメダス十和田の最低気温と水田水温 (午前 9 時) の推移
1994年度
最高気温・積算日照時間は過去 7 日間の移動平均
水温は週 2 回の計測データを使用。

3) 日平均気温と水田水温の関係 (図 3 参照)

水温データが少ないために、全体の傾向を読むことはできません。平均気温が 20 度を超えるのは 7 月 14 日で、ちょうど幼穂形成期に当たる。

水温（度）・日照時間

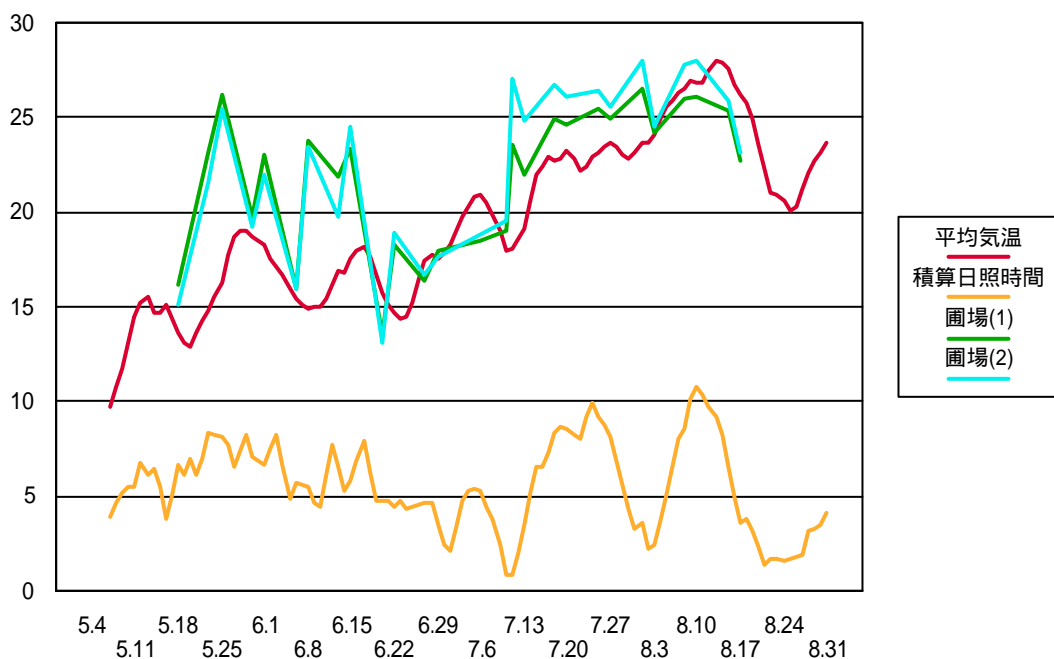


図3 アメダス十和田の平均気温と水田水温 (午前 9 時) の推移
1994年度
最高気温・積算日照時間は過去 7 日間の移動平均
水温は週 2 回の計測データを使用。